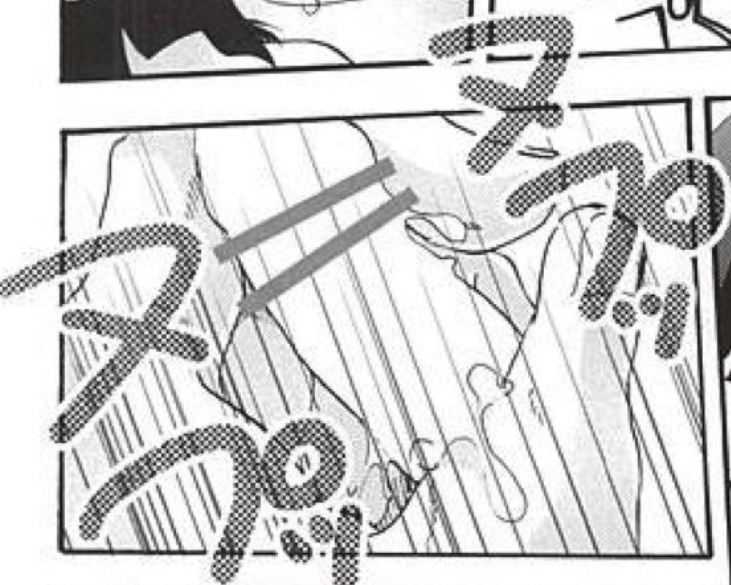




ギア

明日突然死んだとしても、誰も驚かないこの街で僕はなにを迷っていたんだろう？





なんとなく、そうかな、と思っていた

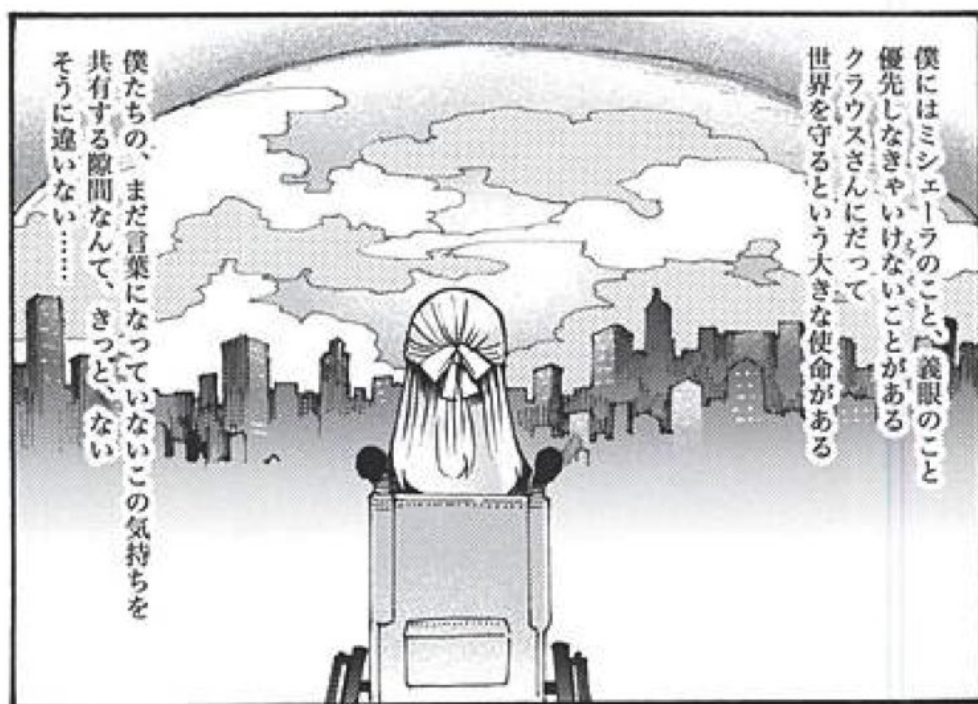
いつからそうだったのか
覚えてはいないけど、結構、前……



僕が告白すれば両想い？



それは、よく目が合うとか、二人でいる時の
微妙な空気の違いとか、とても曖昧なものだけど
不思議と、確信があった……
そしてクラウスさんは自覚がないようだ



僕にはミシエーラのこと、義眼のこと
優先しなきゃいけないことがある
クラウスさんにだって
世界を守るという大きな使命がある

僕たちの、まだ言葉になっていないこの気持ちを
共有する隙間なんて、きつと、ない
そうに違いない……

そう、思っていたのに……







ヒョ

実験を
停止しました

レオ、大丈夫かね

あ、はい……ちよと
足挫いて……

この時、
ああ、もう駄目だなんて思った

クラウドさん

僕、クラウドさんのこと
好きです……

……尊敬
しています……

はじめてのキスは、少し切った口内の血と、
ザラザラとした砂の混じりの埃っぽい味がした



そういえばここ、ライブラの仮眠室だよな
シャワーもまだ、だった気がする……



あッ

ああ

もう、クラウスさんの匂いじかしない……



ふあッ

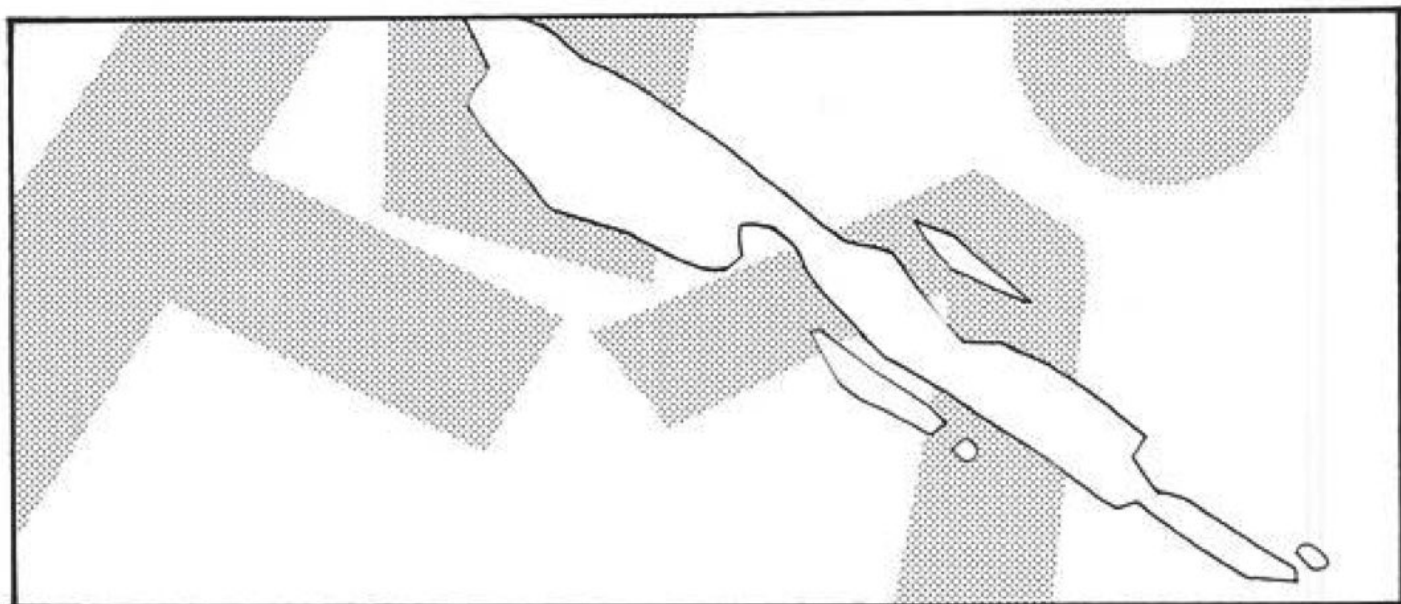
あうッ

ああ、もお
たまんないッ



ふえッ

んッ
んう



明日死んでも不思議じゃないこの街で
貴方に想いを伝えたいなんて
そんな選択肢はなかったんだ……

ああー……苦しい……
色んな体液が混じって……

手がすべって、息ができなくて……

ゴボ

あなたの海で溺れて死んでしまいそうです……

ゴボ
ゴボ





いや、すっげー
嬉しかったですけど



ーレオツ

フミューッ

ギョッ

キャーッ

起き立しない
で下をビッ

ストローツプ!!

ストローツプ!!



恥ずかしながら
君の前では
無理なようだ



あの、僕の話
聞いてましたか?

クラウスさん
忍耐の人でしょ?
紳士でしょ?

ギョッ

ギョッ





じっ

じゃあ
ちゃんとクラウドさんの
言葉で返事下さい

そ、その
したいことも
色んなことも
全部その後です！



レオ
私は……



Blood Blockade Battlefront FAN BOOK No.02 Klaus*Leonardo Thompon:GAZERU